

活動成果報告書

令和2年度（第24回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

3歳児健康診査における視覚検査の精度向上に向けた取り組み

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

燕市 健康福祉部 健康づくり課

代表者：高野 綾子



勤務先：燕市役所

所 属：健康福祉部 健康づくり課

所在地：〒959-0242

新潟県燕市吉田大保町25-15

TEL：0256-93-5461

FAX：0256-93-5463



◇活動方針

視力は成長とともに発達し、6歳頃までには完成すると言われており、遠視・近視などの屈折異常や斜視などの疾病の早期発見・早期治療に結び付けることが3歳児健康診査（以下3歳児健診）において大切となっている。燕市では今まで実施してきた視力検査に加え、平成30年度より新潟医療福祉大学の協力のもと、新たに視能訓練士による屈折検査を導入することで、より精度の高い視覚検査を実施し、屈折異常の早期発見・早期治療につなげている。

◇活動内容とその成果

【活動内容】◆視覚検査見直しの経過

<平成28年度末>

燕市医師会の眼科医から、3歳児健診での視覚検査について屈折検査導入を含めた見直しを行うよう提言をいただく。

<平成29年度>

1. 実態把握

- 県内の他市町村（29市町村）の3歳児健診視力検査方法や未実施者のフォロー状況
- 屈折検査を導入している福島市、静岡市の実施状況
- 燕市の就学時健診での視力検査受診勧奨数



【屈折検査実施状況】

活動成果報告書

2. 視力検査実施率向上に向けて

- 4月から家庭での視力検査未実施児に対して、健診会場にて看護師が視力検査を実施。
- 医師会眼科医から、保護者の家庭での視力検査の不正確さについて助言をいただいたため、12月から家庭での視力検査結果に関わらず、受診児全員に健診会場にて視力検査実施へ変更。

3. 平成30年度の事業化に向けて

- 医師会の眼科医へ経過報告
- 来年度の事業化に向け、資料作成と協議を財政担当者などで行うが予算化ならず。
- ◎平成30年度に新潟医療福祉大学の研究に協力する形で、視能訓練士による屈折検査導入の検討。
- 視力検査の意義と手技の技術向上のための研修会を開催（講師：新潟医療福祉大学）
- 医師会眼科医へ来年度の方向性について報告

<平成30年度>

1. 令和元年度の事業化に向け、屈折検査を導入しての成果・評価のまとめ

- 実施内容：受診児全員に、①視能訓練士による屈折検査の実施
 - ②看護師による視力検査の実施
 - ③①または②において異常があった場合、医療機関への受診勧奨
(初回は受診票を発行し、自己負担なし)
- 医師会眼科医へ、実施状況報告および次年度の方向性について報告。
- 燕市での事業化決定に伴い、医師会長および健診従事予定の小児科医へ報告。

2. 家庭用検査キットの見直し

家庭での視力検査精度の向上 【参考：視力検査のお知らせ】（3歳児健診の案内とともに同封）を目的に、従来の検査キットを新潟医療福祉大学とともに、燕市独自のものを作成。



活動成果報告書

<令和元年度>

【参考：燕市家庭一次視覚検査動画】

1. 燕市で事業化

2. 視力検査の動画制作に協力

家庭で保護者が気軽に視力検査に取り組めるよう、新潟医療福祉大学の「動画作成」に協力し、検査案内文にQRコードを添付。

燕市ホームページにも屈折検査の説明とQRコードを添付。



【活動成果】

1. 3歳児健診における視覚検査の結果（視覚検査見直し前後で比較）

自宅での検査方法の見直しをおこなったことにより、自宅での実施率が上がっただけでなく、健診会場で再度視力検査をすることにより、再検査の対象児が減少した。（初回検査結果の要再検査率：平成28年度 24.8%→令和元年度 10.1%）

2. 上記精密検査対象児の受診結果（視覚検査見直し前後で比較）

視覚検査の見直し前と比べ、精密検査の対象者は増え、受診した児の約9割（令和元年度：最終結果精密検査受診児 67人中異常あり 58人（86.6%））に目の異常が見つかっている。屈折検査時、受診の必要性を視能訓練士から説明してもらうことにより、高い受診率につながっていると思われる。

また、保護者からも「検査するまで気がつかなかった」との感想や、発達教室に参加していた児が受診した結果、眼鏡使用を始めたことにより、多動が落ちつくなど、視覚からの情報の大切さを改めて実感できた。

今まで視覚検査は、自覚的な視力検査に頼っており、対象児の理解力や言葉の発達などに左右されることが多かった。この度、導入した屈折検査は、数秒でできる検査であり、発達がゆっくりな児も実施でき、児への負担も少ない。また、新潟医療福祉大学の研究に協力する形で視覚検査を見直すことができたことに加え、新規に視能訓練士の人材確保にもつながり、健診体制がより充実した。

◇今後の計画

燕市では3歳児健診終了後、就学時健診まで視力検査をする機会がない。そのため、精密検査対象となった保護者へ、結果説明とともに受診の必要性を伝え、精密検査の受診率向上を目指していくことが重要である。本検査が新潟県内の他市町村へも普及していくよう、今後も新潟医療福祉大学とともに、啓発普及に努めていきたい。